

第6回風工学シンポジウム（構造物の耐風性に関するシンポジウム）

開催のお知らせと発表論文の募集について

<共催> 日本学術会議構造研究連絡委員会耐風構造分科会、電気学会、土木学会、日本気象学会、日本鋼構造協会、日本風工学研究会、日本建築学会（幹事学協会）

<主旨> 構造物と自然風の相互作用に関連した気象、土木、建築、電気の各分野における研究成果と技術の交流を目的として、標記シンポジウムを下記により開催致します。本シンポジウムは、過去10年にわたり「構造物の耐風性に関するシンポジウム」なる名称で開催してまいりましたが、前々回あたりから討議の内容もかなり拡大してきており、他方国際的にはWind Engineeringなる分野が定着してまいりました。このような事情から、さしあたり、対象の大きな変更は致しませんが、研究技術の進展に対処し今回より名称の変更にもふみきました。以上の主旨によりふるって発表論文をご応募下さるようご案内申し上げます。

開催期日：昭和55年11月下旬

会場（予定）：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）地下鉄千代田線乃木坂駅下車

発表論文の募集

(1) 課題 課題は次によるものとし、論文の内容は独創性のあるものでなければならない。

- a) 強風災害
- b) 自然風の性質

- c) 構造物の周辺気流
- d) 風圧および空気力
- e) 風による構造物の応答
- f) 計測方法（風洞実験法を含む）
- g) 耐風設計法（設計風速および風荷重を含む）

(2) 応募方法

- 1) 論文提出希望者は、昭和55年6月30日（月）までに、①所属学協会、②氏名（連名の場合は発表者に○印を付ける）、③勤務先と職名、④連絡先、⑤前項の課題名 を記入のうえA4判用紙に邦文700字以内の内容概要を幹事学協会に提出する。
- 2) シンポジウム運営委員会は、発表論文の採否を昭和55年7月15日（火）までに決定し、応募者に通告する。

(3) 発表論文の執筆

- 1) 論文採否通知の際、採用された論文著者には執筆要領および所定の原稿用紙を送付する。ページ数は8ページ以内（英文概要1ページを含む）の偶数ページとする。
- 2) 論文原稿は昭和55年9月16日（火）までに、今回の幹事学協会である日本建築学会に提出する。
- 3) 提出先・問合わせ

日本建築学会「第6回風工学シンポジウム係」
〒104 東京都中央区銀座3-2-19 電話03-535-6511

正 誤 表（下記の通り誤植がありましたのでお詫びして訂正させていただきます）

巻号	ページ	行	誤	正
27.4	301	右上16	WCRP	CRP
27.4	261	脚注4~6	**Yoshitsugu Nagasawa, 札幌管区气象台 (現 稚内地方气象台) ***Kazuo Miyakawa, 札幌管区气象台	**Yoshitsugu Nagasawa, 札幌管区气象台 ***Kazuo Miyakawa, 札幌管区气象台 (現 稚内地方气象台)
27.4	288	新入会員 右上3	名古屋市西南区貝田町 1-5	名古屋市西区貝田町 1-5